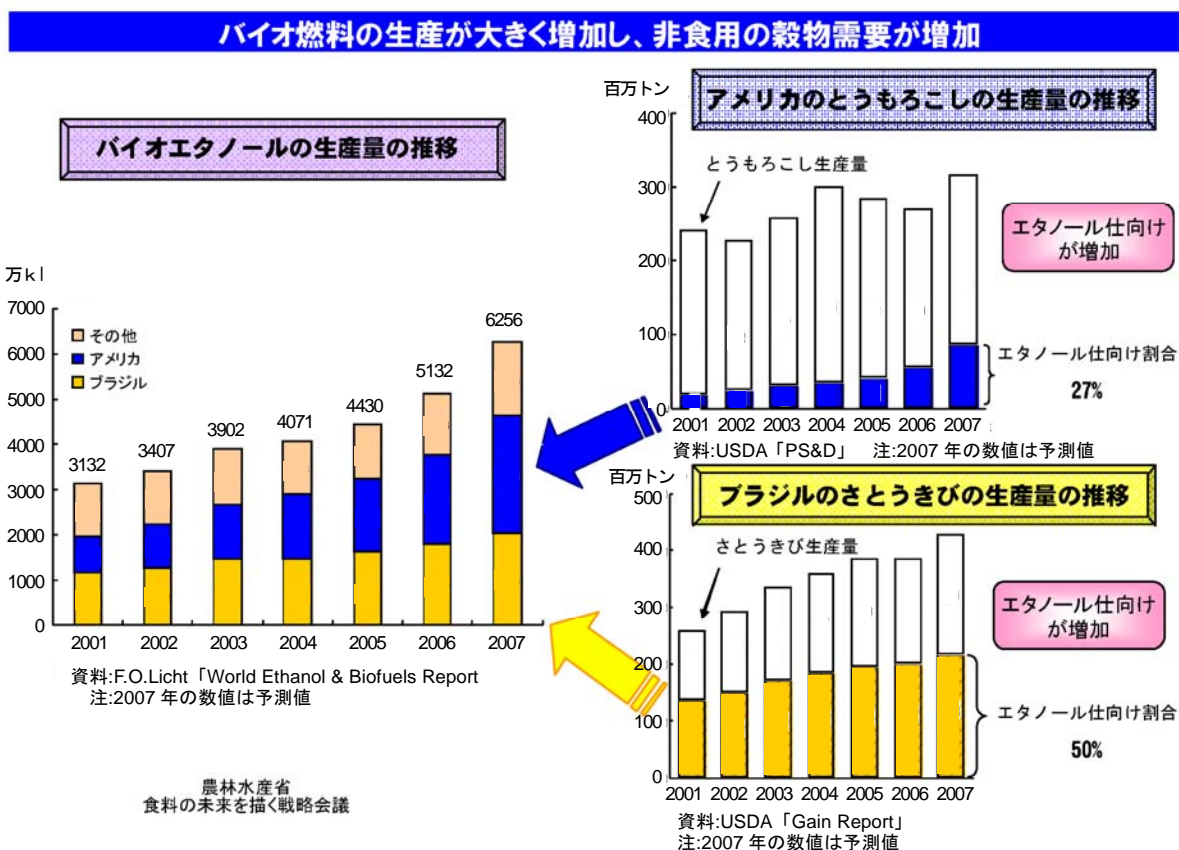


図Ⅲ-5 世界の遺伝子組換え農作物のベネフィット試算(1996-2006累積).

作物	農薬使用量の変化(1000トン)	農薬使用量の変化(%)
除草剤耐性ダイズ	-62.4	-4.4
除草剤耐性トウモロコシ	-46.7	-3.9
除草剤耐性ワタ	-32.1	-14.3
除草剤耐性ナタネ	-7.9	-12.6
害虫抵抗性トウモロコシ	-8.2	-5.0
害虫抵抗性ワタ	-128.4	-22.9
総計	-285.7	-7.9

(出典) G. Brooks 他 “Global Impact of Biotech Crops : Socio-Economic and Environmental Effects, 1996-2006 ”

図Ⅲ-6 バイオ燃料の生産.

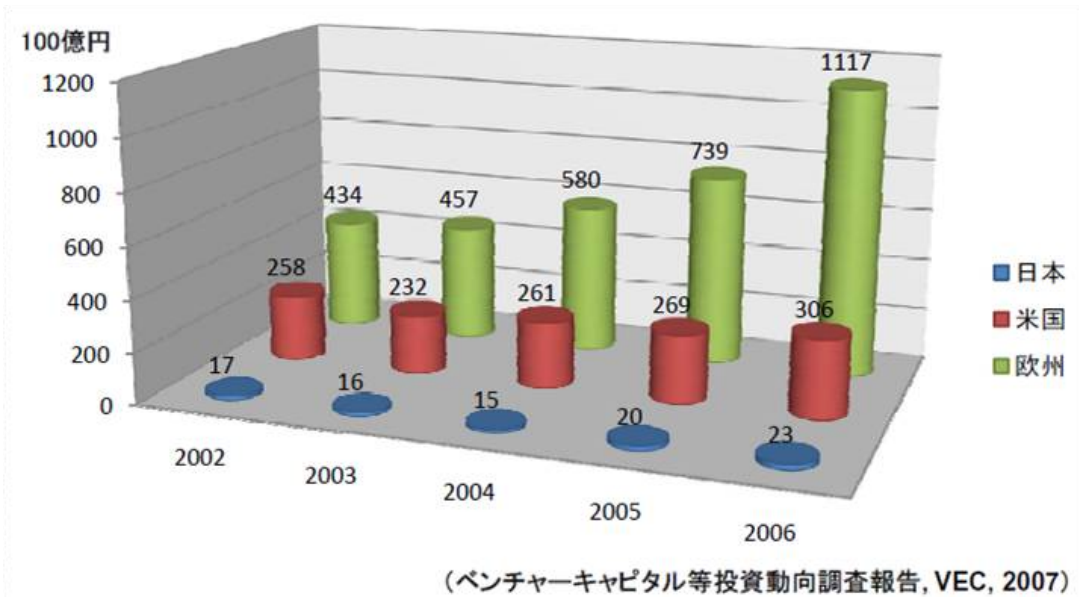


#### **(8) 研究開発の実用化に向けた社会基盤の整備とシステム改革の実施**

- バイオベンチャー育成による新産業創出への基盤を強化する。そのために必要となる、税制とファンドの整備を図るため、国は研究初期段階の研究開発支援制度、民間は臨床段階のベンチャーに対するファンドの創設を支援する。
- バイオ医薬品を含めた医薬品・医療機器開発関連のベンチャー企業の育成等について官民対話等において引き続き検討を行う。
- 国内外クラスター間の連携強化、クラスター形成活動への継続的支援を行う。
- 高い専門性を持つポストドクターについて、企業での有効活用を図る。
- 知的財産を強固なものとするため、バイオ分野に精通した弁理士や、経営コンサルタントなどの人材育成を行う。

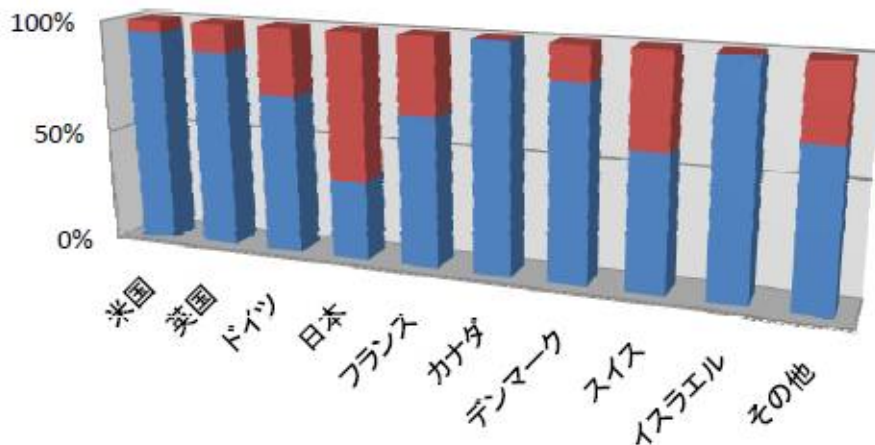
図Ⅲ-7 日米欧のベンチャーキャピタル投資額の推移.

日本の投資額は極めて小さい.



図Ⅲ-8 各国のバイオ医薬品創出の担い手(2006年).

各国ではバイオベンチャーが主な担い手となっているが、日本はバイオベンチャーの貢献が比較的に小さい.



<開発品目数> フェーズⅡ-申請中	米国	英国	ドイツ	日本	フランス	カナダ	デンマーク	スイス	イスラエル	その他
	■ 製薬企業	12	5	7	9	4	0	1	2	0
■ バイオベンチャー	222	36	17	5	8	8	6	3	4	13

(Pharmaprojects (PJB), JPMA, 2007)

### 3. 国民理解の促進

#### (9) バイオテクノロジーに関する教育の推進

- バイオテクノロジーに関するリテラシー（情報・知識を理解し、思考し、使いこなす能力）を醸成する取り組みを官民挙げて行う。
- 関係学会、企業等が情報提供等により積極的に協力し、副読本を作成する。
- 小中高校の理科、生物等の教員に対する最新情報の提供の取組みを強化する。また、関係学会、企業等が積極的に協力し、副読本やニュースレターを作成したり、それを用いた講習会等を支援する。
- 中高校の理科の実験に対する企業等の支援システムを構築する。
- 中高校生を対象として、GMO等の新しいバイオテクノロジー技術に関するシンポジウムを全国的に行っていく。
- マスコミ、自治体、市民へのバイオテクノロジーに関する普及・啓発活動を行う。

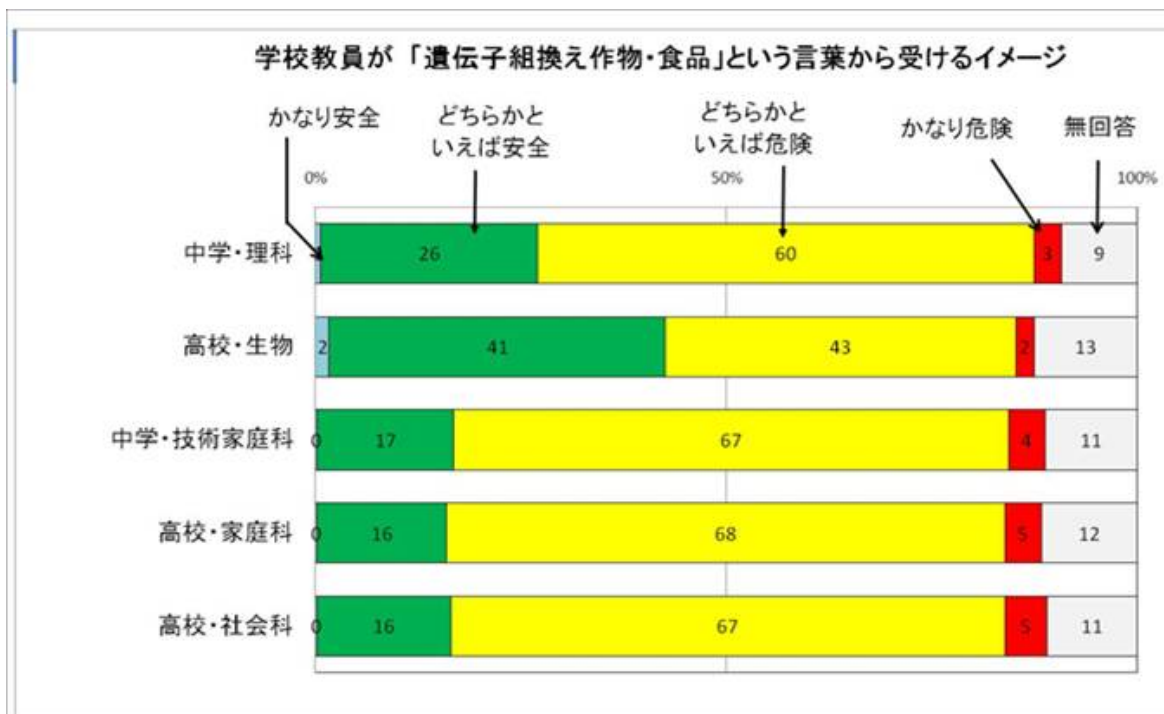
#### (10) リスクコミュニケーションの更なる推進

- GMOなど新しいバイオテクノロジーについて、その有用性や安全性、環境（生物多様性）への影響等についての正確な情報提供を継続して行う。
- バイオテクノロジーについて、十分なリスクコミュニケーションを実施する。
- バイオテクノロジーに関するリスクコミュニケーションに必要な教材開発や人材育成に取り組む。

#### (11) 国のリーダーシップによるバイオテクノロジーに関する国民理解の推進

- 「BT戦略推進官民会議」に「国民理解推進作業部会」を設置し、そのリーダーシップの下に、バイオテクノロジーに関する国民理解を推進する。
- バイオテクノロジー研究開発に関する科学的情報を国民に知らせるため、マスコミへの情報提供も含めた積極的な対策を推進する。
- バイオテクノロジーに関して、より科学的な基盤に立った議論が行われるよう、科学者が連携して科学的情報を提供したり、意見を伝える体制を構築する。
- BTの推進のための基本的枠組みについて幅広く検討する。
- GMOについて、その有用性や必要性、食としての安全性、環境への影響の観点から国民理解を推進する。

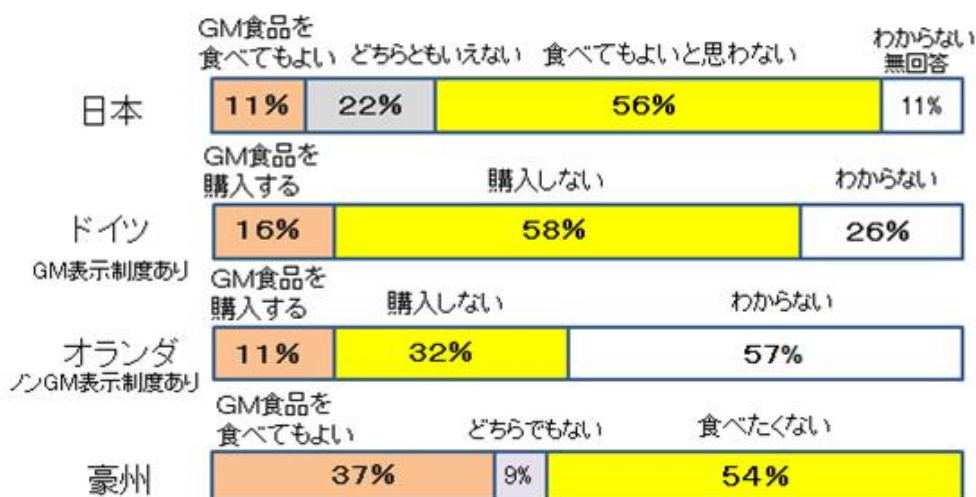
図 III-9 GMOに対する学校教員のイメージ.



出典:内閣府「遺伝子組換え技術等に関する学校教員の意識調査」(2008.3)

図 III-10 GMOに対する国民意識の国際比較.

◆個人的受容(acceptability)に関する比較



(出典)日本:「JGSSで見る日本人の遺伝子組換え食品に関する態度」(田中、2005)  
 ドイツ・オランダ:Do European Consumers Buy GM Foods? (欧州委員会、2008)  
 豪州:Trends in Australian community attitudes regarding GM foods (Biotechnology Australia 2006)